

第1章 背景と目的、計画期間等

第2章 四者で「目指すべき姿」

第3章 地域活性化策

第4章 事業推進のために必要な措置

第3章の構成

「生活環境の向上」「産業振興」「インフラ整備」の3つの柱において、分野ごとに項目を立て、各主体が実施する地域活性化策の基本的な方針や個別の施策事業を掲載

1. 生活環境の向上

- (1) 地域から空港・航空関連ビジネスへの人材輩出の促進
- (2) 更なる機能強化を見据えた住環境等の整備
 - ①「暮らし」の視点を踏まえたまちづくり
 - ②更なる機能強化を見据えた住宅等の整備
- (3) 9市町内や9市町から成田空港への公共交通によるアクセス利便性の向上
- (4) 成田空港と地域の連携による地域防災力の向上

2. 産業振興

- (1) 今後の空港とまちづくりを支える産業振興等
 - ①空港を活用した地場産業・中小企業振興
 - ②今後の空港とまちづくりを支える企業誘致
- (2) 空港を起点とする観光振興策の推進
- (3) 空港と近接している地域特性を活用した農林水産業の振興
 - ①力強い産地づくりと販売力の強化
 - ②農業用水と農地の整備

3. インフラ整備

- (1) 地域と空港の発展を支える道路の整備
- (2) 空港周辺の河川整備

(参考) 第3章の各項目における記載内容

【現状と課題】

- 各分野における現状と課題を記載

【取組の基本方向】

- 各分野で地域活性化策として実施する取組の方向性を記載

【主な取組】

- 滑走路整備計画の工事完成予定期日である令和10年度末（2028年度末）までに着実に取組や検討を進めるべきことを「今、やるべきこと」として、各分野での取組の方向性に
応じ、重要な取組であるという認識を四者で共有している事項を記載
- 特に令和10年度末（2028年度末）までに取組の効果の発現を目指すべきことについては別冊「施策事業編」において整理

【参考】見直し前の「主な取組」

- 短期的に実施できる、あるいは着手できるような「今、できること」として、各分野での取組の方向性に
応じ、重要な取組であるという認識を四者で共有している事項

【主な取組（民間）】

- 該当する分野における各主体の取組と関連性が深い、あるいは、連携していくべきものなど、特筆すべき民間での取組を記載

【今後、検討すべきこと】

- 第2章で掲げた将来像と、上記の「今、やるべきこと」との差に該当し、今後の状況の変化を踏まえた対応など、中長期的な検討が必要になる課題等を記載

1. 生活環境の向上

(1) 地域から空港・航空関連ビジネスへの人材輩出の促進

【現状と課題】

- 年間発着回数が50万回に到達した際に期待される雇用増加数は、空港内外で約6.4万人と試算されているが、9市町の人口は減少
- 空港・航空関連企業の人手不足が顕在化しており、**人材の確保に早期に取り組むことが必要**

【取組の基本方向】

- 空港や空港に関連する産業に、**地域の人材をより多く輩出**することを目指し、就業促進の取組や、キャリア教育の取組などを、民間企業とも連携して推進

【主な取組】

- 空港・航空関連企業への就業促進
- 空港を意識したキャリア教育、人材育成
- 空育事業【民間】（JAL、富里市、多古町、栄町）など

【今後、検討すべきこと】

- 新たな産業拠点の開発に伴い必要となる人材の確保
- 各者が取り組む人材確保策の連絡調整・情報共有など
関係機関の連携強化



成田空港内関連企業 合同企業説明会

1. 生活環境の向上

(2) 更なる機能強化を見据えた住環境等の整備

①「暮らし」の視点を踏まえたまちづくり

【現状と課題】

- 本プランで目標として掲げる約3.8万人の地域人材を9市町から輩出するため、多くの人々から住まいとして選ばれるまちとなることが必要
- 新しい生活様式や多様なライフスタイルを踏まえ、多くの人々を惹きつけるまちづくりが必要
- 持続可能な地域となるためにも、カーボンニュートラルへの積極的な取組が必要

【取組の基本方向】

- より多くの住民が生活する地域とするため、基本的な住環境の整備にとどまらず、9市町の特性を生かした魅力的で、住みたくなる、働きたくなる生活環境づくりを推進

【主な取組】

- 多様な生活様式を実現するまちづくり
- 移住・定住施策の推進
- 子育て支援、地域医療の充実などによる安心・安全な生活環境の確保
- 外国人の受け入れ環境等の充実
- カーボンニュートラルに向けた取組の推進

【今後、検討すべきこと】

- 多様なニーズに対応する教育環境等の充実



(仮称) 山武市学校給食センター イメージ
令和5年7月31日 ZEB認証を取得
(山武市提供)

1. 生活環境の向上

(2) 更なる機能強化を見据えた住環境等の整備

②更なる機能強化を見据えた住宅等の整備

【現状と課題】

- 約3.8万人の地域人材を9市町から輩出することを目標としており、約3.8万人の従業員やその家族が居住する住宅の整備が必要
- 既存住宅の活用を視野に入れつつ、**社会状況の変化を見据えた新規住宅開発**の検討が必要

【取組の基本方向】

- 9市町それぞれの地域特性を生かし、空港や関連産業で働く人々の様々な生活様式に合わせた選ばれる住宅の整備を官民で連携して推進

【主な取組】

- 空港敷地拡大に伴う移転対象地区の移転先整備等
- **空港勤務者等の増加に対応する住宅整備** • 既存住宅の活用

9市町の主な新規住宅地 開発計画

吉倉・久米野地区（成田市）	更なる機能強化や国際医療福祉大学成田病院の開院などに伴う人口増加の受け皿として、住宅地の形成を図る。
不動ヶ岡地区（成田市）	更なる機能強化に伴う人口増加の受け皿としての住環境整備を進める。
多古台地区（多古町）	空港移転者に向けた住宅地を整備する。
五辻地区（多古町）	空港移転者に向けた住宅地を整備する。
川津場地区（芝山町）	南側：「農」をテーマとする移住ニーズに対応した「田園型居住地創出拠点」として整備を進めている。 北側：空港移転者に向けた住宅地を整備する。
千代田地区（芝山町）	空港移転者や空港従業員向けの住宅地の創出を視野に入れた市街地整備を目指す。
小池地区（芝山町）	主に子育て世帯の居住ニーズに対応した市街地としての整備を進める。
横芝地区（横芝光町）	更なる機能強化に伴う空港関連施設の立地及び就業者の増加を大きな機会と捉え、空港関連施設の就業者等を主なターゲットとした新たな居住地の創出を目指す。
宮川地区（横芝光町）	更なる機能強化に伴う空港関連施設の立地及び就業者の増加を大きな機会と捉え、空港関連施設の就業者等を主なターゲットとした新たな居住地の創出を目指す。

1. 生活環境の向上

(3) 9市町内や9市町から成田空港への公共交通によるアクセス利便性の向上

【現状と課題】

- 空港就業者の増加や高齢化の進展などにより輸送サービス需要の増加が見込まれる中、現在の地域公共交通の採算性やドライバー不足等への対応が必要
- 定時性・速達性を確保するため道路整備やパークアンドバスライドなどの検討が必要
- 空港への鉄道アクセス向上のため、鉄道事業者等を交えた議論が必要

【取組の基本方向】

- 既存の公共交通機関の充実を図るとともに、自動運転技術の積極活用、次世代モビリティの導入、市町横断的な交通事業の実施などにより地域公共交通の再構築（リ・デザイン）を目指す国のモビリティ政策とも連携し事業を推進
- 新旅客ターミナルに直結する新駅設置、空港周辺の単線区間の解消等による鉄道利便性の向上や、パークアンドバスライド、BRTなどの実現に向けて検討を実施

【主な取組】

- バスによる空港アクセス等の充実
- 鉄道による空港アクセスの充実
- 地域公共交通計画の推進
- 新技術を活用した交通アクセスの充実
- 夜間時間帯における空港アクセスの拡充【民間】（交通事業者）

【今後、検討すべきこと】

- 広域連携による持続可能な公共交通の検討
- 芝山鉄道の延伸に関する検討及び周辺施設と連携した利活用促進



自動運転バス（出典：横芝光町HP）

【現状と課題】

- 成田空港は、災害時における対応を強化することが求められている
- 地域と空港の連携強化や強靱な防災基盤の整備など、災害に強い地域づくりが必要

【取組の基本方向】

- **空港と地域が連携し、災害に強い地域づくりを進める**ことで、更なる機能強化を見据え、住民の暮らしや企業の拠点として選ばれる地域となることを目指す
- 更なる機能強化や新たな住宅地整備など、空港や周辺整備計画の進展に応じて必要な装備や消防施設などは、順次、計画の具体化に合わせて整備を推進

【主な取組】

- 成田空港の災害対応の強化
- 空港を有する地域としての、災害に強い地域づくり
- 航空会社における機用品更新に合わせた物資提供
【民間】（航空事業者）

【今後、検討すべきこと】

- 空港や周辺整備計画の進展に応じた装備や消防施設などの整備



航空機事故消火救難総合訓練
(出典：成田国際空港(株))
R5.10.10プレスリリース資料)

2. 産業振興

(1) 今後の空港とまちづくりを支える産業振興等

① 空港を活用した地場産業・中小企業振興

【現状と課題】

- 空港周辺地域では、地域特性を生かした産業が営まれている
- 地域と空港の結びつきをさらに深め、地場産業の活性化を図ることが必要

【取組の基本方向】

- 行政の支援策、商工会・商工会議所による伴走型支援、相談体制により、地域経済を支える中小企業等が抱える様々な経営課題の解決を支援
- 地域資源を生かした土産品の開発や商談会等を通じた空港関連ビジネスへの参入促進、空港利用者の地域観光への誘導などによる空港関連需要やインバウンド増大の効果の取り込み

【主な取組】

- 中小企業等の経営力向上の支援
- 空港・航空関連企業と地域の企業のマッチングの推進
- 地場産業の活性化
- 「おいしい千葉と空の商談会」【民間】
(成田空港活用協議会) など



2. 産業振興

(1) 今後の空港とまちづくりを支える産業振興等

②今後の空港とまちづくりを支える企業誘致

【現状と課題】

- 更なる機能強化や広域的な幹線道路の整備進展による空港周辺地域のポテンシャルの高まり
- 空港周辺地域の持続的な発展のためには、空港と周辺地域のポテンシャルを最大限に発揮し、空港と地域が一体となった産業拠点化を図ることが重要。『新しい成田空港』構想においても空港隣接地との一体的運用として新貨物地区を整備する方針が示される。
- 空港周辺地域の特性に応じた戦略的な企業誘致、受け皿となる新たな産業用地の確保が必要

【取組の基本方向】

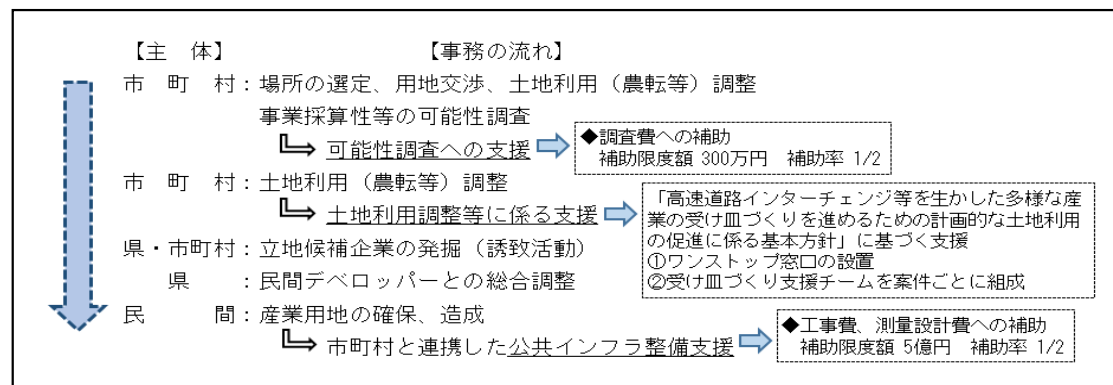
- 県の産業用地確保策を活用し、産業用地の整備を推進するとともに、県と市町で連携して、国際空港への近接性という特性を踏まえた企業誘致活動を展開
- 空港の機能と一体となった航空物流拠点の整備の促進、空港の特徴や強みを生かした産業の集積や新たな産業の創出に向けた検討を進め、成田空港を核とした国際的な産業拠点を形成

【県・市町村・民間の役割分担による産業用地の確保スキーム】

【主な取組】

- 新たな産業用地の確保
- 企業誘致の推進
- 国際的な産業拠点の形成
- 市町村による産業用地の整備への参画

【民間】（民間デベロッパー等）



【現状と課題】

- 新型コロナウイルス感染症5類移行による国内移動の活性化やインバウンドの回復等を受け、**本県を訪れる観光客数は回復・増加傾向**
- 更なる機能強化により、旅客の大幅な増加が見込まれていることから、**空港を訪れる旅客を空港周辺地域及び県内各地へ誘導し、**地域の観光振興につなげていくことが重要

【取組の基本方向】

- 空港を通過点に終わらせることなく、**空港を拠点として国内・海外旅客を空港周辺地域及び県内各地へ誘導する**広域的な観光施策を展開
- 安全安心でストレスフリーな観光に向けた環境整備や地域特性を生かした観光資源の発掘・磨き上げ、国内外へ積極的な情報発信を実施

【主な取組】

- 空港から周辺観光地への誘客促進
- 観光プロモーションの展開
- 地域の観光資源の発掘・磨き上げ
- 観光農園【民間】（JAL Agriport（株））など



ランドオペレーターとの商談会
（成田空港活用協議会提供）

2. 産業振興

(3) 空港と近接している地域特性を活用した農林水産業の振興

①力強い産地づくりと販売力の強化

【現状と課題】

- ・次世代を担う人材の育成・確保や、スマート技術の積極的な導入などによる更なる成長が必要
- ・空港への近接性を生かした流通販売体制の強化、成田市公設地方卸売市場を活用した更なる輸出拡大が必要

【取組の基本方向】

- ・農業者に魅力のある地域であることをPRし、農業を支える新たな人材確保や企業参入を促進
- ・農地の集積・集約化、ICTやロボット・AIなど新技術の導入により、スマート農業を推進
- ・農作物の生産力強化や6次産業化による高付加価値化、空港ビジネスへの参入促進、海外輸出を含めた販路拡大などによる更なる農業振興

【主な取組】

- ・次世代を担う人材の確保
- ・産地の戦略的な競争力強化と高収益型農業への転換
- ・地域の特色を生かした販売力の強化
- ・ちばマルシェ空の駅【民間】（ちばマルシェ空の駅出店者協議会） など



成田市公設地方卸売市場
（出典：成田市HP）

2. 産業振興

(3) 空港と近接している地域特性を活用した農林水産業の振興 ②農業用水と農地の整備

【現状と課題】

- 成田用水は、完成から40年以上が経過し、近年は老朽化による故障や漏水が頻発
- 更なる機能強化による農地の減少、移転による耕作地の分散・遠距離化、生産者の高齢化や後継者不足などにより、生産力の低下や農地の維持管理が困難になるおそれがあるため、**農地の規模拡大による生産コストの低減や、新たな担い手の確保等が必要**
- ナガエツルノゲイトウなどの外来水生植物への様々な管理者と連携した対策が必要

【取組の基本方向】

- 更なる機能強化に伴うビジネスチャンスの拡大を地域の農業振興につなげていくため、その土台となる**農業用水の安定供給と農地の整備**を推進

【主な取組】

- 成田用水事業の推進
- 土地改良事業の推進
- 空港周辺の外来水生植物対策の実施
- 土地改良区による成田用水施設の維持管理

概要図



成田用水概要

3. インフラ整備

(1) 地域と空港の発展を支える道路の整備

【現状と課題】

- ・更なる機能強化による旅客数や貨物取扱量の増加に対応できる広域的な道路ネットワークの充実、強化、9市町の新たなまちづくりに合わせた道路整備が必要

【取組の基本方向】

- ・県内外と成田空港との人・モノの流れを円滑化し、物流の効率化、企業立地の促進、観光振興等を図るため、**高規格道路やアクセス道路を整備**
- ・**空港へのアクセス強化やまちづくりを支える道路網の充実を図るため**、将来の交通動向により整備が必要となる路線や市町のまちづくり等で将来に新たな交通需要が見込まれる道路について、道路整備計画を速やかに策定し、早期事業化に向けた調査を進める。

【主な取組】

- ・高規格道路の整備
- ・高規格道路へのアクセス強化
- ・地域のまちづくりを支える道路の整備
- ・空港敷地拡大に伴う付替・補償道路の整備
- ・交通安全性の向上

【今後、検討すべきこと】

- ・『新しい成田空港』構想の深度化や将来の交通動向を踏まえつつ、空港へのアクセス強化をさらに図るため、必要となる道路整備
- ・9市町の新たなまちづくりや産業・生活拠点の整備に合わせて必要となる道路への対応



圏央道（大栄JCT付近）の整備状況
出典：国土交通省HP

【現状と課題】

- ・更なる機能強化に伴う拡張部分の主な雨水排水について、洪水等による被害を防止するため、必要な箇所について、計画的な河川整備を進めていくことが重要
- ・ナガエツルノゲイトウなどの外来水生植物への様々な管理者と連携した対策が必要

【取組の基本方向】

- ・更なる機能強化による治水安全度の低下を防ぐため、空港拡張区域の雨水流出抑制対策を実施
- ・洪水等による被害を防止・軽減するため、栗山川、取香川及び荒海川の河川改修等を推進

【主な取組】

- ・空港拡張区域における雨水の流出抑制対策の実施
- ・C滑走路新設に伴い新たに排水先となる栗山川について、河口から飯土井橋までの17.2キロメートル区間における河川改修を推進（特に高谷川合流点までについて、事業の更なる推進）
- ・空港周辺河川の維持管理の実施
- ・空港周辺河川の外来水生植物対策の実施



栗山川（横芝光町）

【今後、検討すべきこと】

- ・開発状況等の変化を踏まえた、河川改修等の検討